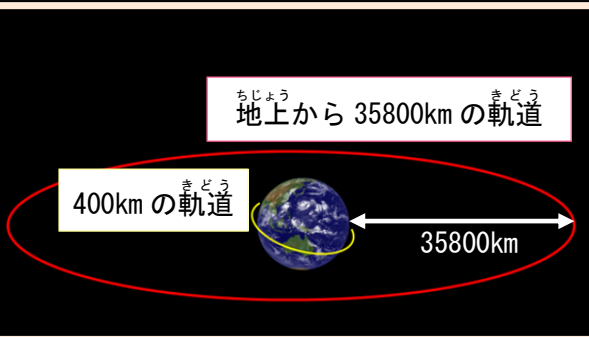


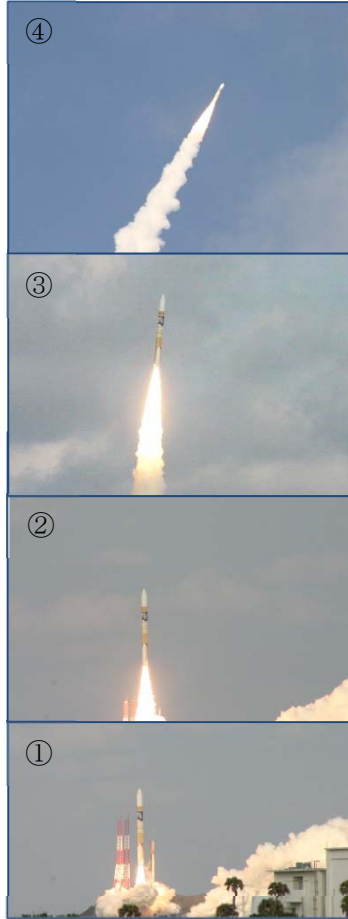
# 気象衛星「ひまわり9号」うちあげ

## 「ひまわり」のうちあげ 「ひまわり9号」は11月2日にロケットでうちあげられました



「ひまわり」は、東経140.7度の赤道の上空 高度 35800 km の位置で地球の自転と同じ速さでまわり、地球から見るといつも同じ場所に静止しているように見えます。

静止気象衛星「ひまわり9号」というのが正式な名前です。



うちあげの様子

「ひまわり9号」は、11月2日(水)に、種子島宇宙センターからH-IIAロケットで打ちあげられました。その後、11月11日、左の図にあるような予定通りの軌道(東経140.7度の赤道上空)に到達しました。

これから、衛星が正常に動くかどうかの確認をおこなったあと、「ひまわり8号」が故障した時に備えて待機します。



2016年	12月5日	月曜日
平成28年		
福岡管区气象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	<a href="mailto:fk-kanku@met.kishou.go.jp">fk-kanku@met.kishou.go.jp</a> (ご意見・ご要望はこちらまで)	

## 「ひまわり」は、たくさんの国の人々の役に立っています!



**ひまわり8号・9号想像図**  
ひまわり8号・9号は宇宙空間にあるので故障した時にすぐに修理することができません。そのため、観測が途切れないように2機体制で運用されています。

20億人以上の役に立っているといわれています。

天気予報にも利用されています。このため、「ひまわり」はアジアや太平洋地域の多くの国々にも提供され、現地には欠かせないものとなっています。

また、「ひまわり」の観測結果は、日本だけでなく、

気象衛星「ひまわり」の仕事は、宇宙から地球の観測をおこなうことです。この観測結果は、日々の天気予報には欠かせないものとなっています。

## 「ひまわり」の仕事

それでは雲のようすを見てみましょう!

天気予報で見かける雲の画像は、「ひまわり」がとったものだよ。



- 24時間・365日休みなく地球の画像を撮影して送ってくる。
- 海の上にある台風の場所や強さがわかる。
- 火山灰や黄砂の動きも見ることができる。
- 日本だけではなく、世界の国々の天気予報に役立っている。

**「ひまわり」のカラー画像**  
「ひまわり」の観測により、世界で初めて地球のカラー画像をいつでも見ることができるようになりました。

そのおかげで、宇宙から今の地球の様子を見ることができます(右の写真は、日本の夕方、太陽の光があたらなくなるところ)。このカラー画像は、気象庁ホームページで「可視」という種類の画像を選ぶことで、いつでも見ることができます。ぜひ確認してみてください。



## 「お天気 Q&A」

Q: 「ひまわり」を地上から見ることはできますか?

A: 「ひまわり」は、地上から35800km上空にあり、大きさが約8mと小さいので、普通に目で見ることができません。

国際宇宙ステーションは、地上から約400km上空にあり、サッカー場くらいの大きさなので、条件がそろえば見ることができそうです。



オリオン大星雲の前を通過する衛星(丸の中の薄い線)。地上から望遠カメラで、光の跡がのこるように撮影。

**気象情報へのアクセス**

雨・雪がふっている場所は

ひまわりの画像を見るには